

**合格発表**

2023年度入試の結果を報告します。58期生は最後まで健闘し、数多くの生徒が栄冠を手に入れました。

総合型選抜と学校推薦型選抜では、東京都立大学、九州工業大学、熊本大学など、26名が合格しました。

2月25日(土)26日(日)に行われた国公立大学前期日程試験の合格発表(本校生徒分)は、3月1日(水)～10日(金)にかけてありました。58期生は東京学芸大学1名、筑波大学1名、九州大学5名、広島大学2名、長崎大学5名、鹿児島大学77名など、121名が合格しました。

また、3月8日(水)に行われた中期日程試験、12日(日)に行われた後期日程試験の合格発表が、3月20日(月)から始まりました。現在、鹿児島大学12名や長崎県立大学、熊本県立大学など、合計で16名が合格し、今年度国公立大学合格者数は合計で163名となりました。

私立大学も、早稲田大学、立命館大学などの難関大学に合格しました。より高みを目指して入試に再チャレンジした卒業生からも、鹿児島大学医学部医学科2名、神戸大学経済学部、岡山大学工学部などへの合格報告がありました。

58期生の最終的な合格状況は、新年度発行の『進路の手引き』等で改めてお伝えする予定です。

58期生の合格体験談

3月16日(木)、58期生から後輩に向けた「合格体験を聞く会」が、パネルディスカッション形式で実施されました。九州大学や広島大学、そして地元の鹿児島大学等への進学が決まった先輩方が、改めて自分の受験生活を振り返り、飾らない生の声を聞かせてくれました。

「鹿児島県で教師になりたい」「心理学を学ぶために総合科学科という学科に行き着いた」など、将来の明確な目標や、学部学科を理解し尽くした上で選択した経緯を語ってくれました。「コツコツ自宅で学習」「休憩をしっかり取る」「先生を頼る」「生徒同士で教え合うこと」など、日々の学習への向き合い方もわかりやすく語ってくれました。最後には後輩たちに、受験を乗り越えた実感とともに、心のこもったアドバイスを送ってくれました。

また、新年度発行の『進路の手引き』には、より詳しい先輩方の言葉や、受験生を支えた保護者の言葉を掲載します。忙しい時間を割いて原稿を書いてくださった先輩方に感謝しつつ、先輩方からのメッセージを自分のこととし、希望進路実現に役立てましょう。

「2年生」になるために ～60期生～

大学入学共通テストの国語・数学・英語で求められる力の大半は1年次の学習内容です。春休みの課題に取り組みながら、既習事項の定着度を確認し、適切な振り返りをしましょう。用語や公式、単語などについては、「記憶できているか」だけではなく、「使いこなせているか」の確認をしましょう。また、次年度から学習する理科や地歴公民は、新しく学ぶ内容ばかりです。後回しにせず、その日その日に振り返る習慣を身に付けましょう。

なお、入試問題のうち約50%が基本問題、約30%が応用問題、約20%が難問と言われています。受験の可否を分けるのは難問よりも基本問題です。2年後を見据えて、早い段階で「圧倒的な基礎力」を身につけましょう。

「受験生」になるために ～59期生～

58期生の成長を見守った先生方の声を、受験イヤーに突入した59期生に紹介します。

A先生:目的意識を持って取り組もう

1,2年次の基礎的な学習の積み重ねができており、平日、休日2タイプの学習習慣がついている生徒は、共通テスト後の二次試験対策までブレずに取り組みました。学習や部活動に限らず、目的意識を持って日常生活を送ることが自信につながったと感じました。

B先生:先生方の助言を素直に受け止め、諦めないで

模試等の結果に一喜一憂するのではなく、間違った問題を徹底的に復習することが大切です。今年もその積み重ねを実践した多くの生徒に勝利の女神が微笑みました。

C先生:日々の授業と復習を大切に

当然のことですが、授業を大切に、何回も何回も復習することが大切です。特に1,2年生の既習内容には早めに取りかかり、分からないところは先生方に積極的に質問してください。

ポイントをまとめると、「学習習慣」「復習」「授業」ということになります。

共通テストは、読解力や思考力が問われますが、ベースにあるのは「基礎力」です。58期生の合格体験談にもあったように、3月から4月にかけての過ごし方が大切です。「基礎力」の定着度の確認を必ず行ってください。定着が確認できた教科や分野については、問題を速く正確に読解し、持っている知識をスムーズに引き出し、思考する時間を確保する意識を高めてください。

足の裏

1 学年主任 小畑 是也

仏教の禪の修行に公案というものがあるのを皆さんは知っているでしょうか。

公案とは座禅を行う修行僧に出される課題・問題のことです。これがまた難問ばかりなのです。例えば、「両手で叩くとパンッと音がするが、片手で叩くどんな音がするか？」とかなんですが、答えられますか？ 俗に禅問答という言葉がありますが、常識では考えられない問題ばかりなのです。修行僧は師から公案をもらい、座禅をしながらひたすらその問題を考えるわけです。

いろいろな公案があるのですが、私が心惹かれた公案を1つ紹介します。それは、「49の曲がり角を曲がり、細い山道を真っすぐに通る」という公案です。49も曲がり角を曲がれば真っすぐには通れませんよね。じゃあどういう意味なのでしょう？ 皆さんはこの公案の意味するところがわかるのでしょうか？ ちなみにある高僧は、「この公案は頭で考えてはいけない。足の裏で考えろ」ってアドバイスをしています。「はあっ。足の裏？ ますますわからんわ…。」と思う人も多いかもかもしれません。

話は少し変わりますが、坂村真民という詩人が「足の裏」という詩を書いています。短い詩ですが、先ほどの公案を解くヒントが隠されているので紹介しましょう。

尊いのは頭ではなく、手でなく、足の裏である / 額から光が出る
まだまだいかん / 本当に偉い人は足の裏から光が出る

という詩です。この詩の解釈も難しいですね。ちなみに「足の裏から光が出る」とはどういうことなのでしょう？ 皆さんも少し考えてみてほしいのです。

さて、3年生の受験の結果が出ました。見事、志望校の合格通知を手にした人もいれば、残念ながら涙を流した人もたくさんいました。では、なぜ涙を流したのか…。いろいろな理由はあったとは思いますが、私が思う一番の理由は「受験勉強のスタートが遅かった」ということです。スタートが遅く、猛烈に追いかけるが、ゴール直前ギリギリで追いつけない。これが私の鹿児島中央高校生に対する印象です。もう少し早くスマホと決別して本気で受験勉強を始めていれば…。残念ながらそのような生徒が今年もたくさんいました。

受験を山登りに例えると、決められた期日までに目標の山頂に立たないといけません。全国の高校生は一斉に山の頂上を目指して登り始めているのに、いまだ山のふもと辺りでスマホをいじり、のんびりしている人。その気になれば、あっという間に頂上へ瞬間移動できると勘違いしている人。そのような人が多かった気がします。そして気がついてみると期日までに頂上にたどり着けていない。涙を流してしまう。とても残念なことです。「まだ受験まで2年もあるし…。」その慢心こそがとても危険なのです。

さて、先程の公案の答えですが、皆さんはわかりますか？ 「49の曲がり角を曲がり、細い山道を真っすぐに通る」。この公案の正確な答えを私自身は知りません。しかし、あえて解釈すればこういうことなのでしょう。「大切なのは毎日の一步一步。一步一步、休まずに確実に歩を進めていけば、たとえ49の曲がり角がある細い険しい困難な山道でも、目標に向かって真っすぐに歩いて行ける。その時、その人の足の裏は傷だらけで、豆だらけでぼろぼろかもしれない。しかし、その足の裏はとても輝いているし、光が出ているのだ」。この公案はそのようなことを教えてくれているような気がするのです。

「本当に偉い人は足の裏から光が出る」。1年生の皆さんに尋ねます。

今、皆さんの足の裏からは光が出ていますか？

1年後の自分を描いて

教頭 草木迫 健

高校に入学して、2年が過ぎ、いよいよ3年目を迎えようとしています。3年生になると部活動では今までの成果を結集させて臨む最後の大会が迫り、学校行事では、高校生活最後の文化祭や最後の体育祭等、皆さんにとって常に頭に「最後の」という言葉がつく行事等に臨んでいくことになります。その中で3年生という待ち迎えているのが受験です。これは、高校生活の中で最後に通過しなければならない最も重要な次の段階へ進むために避けて通れないものです。高校入試とは異なり、県内や県外からのより広範囲に及ぶ受験生と進路先に向けて同じ試験に臨むことになります。

1年後に、自分がどのような日々を過ごしているか想像したことがありますか。今はまだ進路について、はっきりとしていないところもあるかもしれませんが、時は確実に経過します。1年後の自分がそこにいます。受験が近くなると、「もう1回、最初からやり直したい。もう時間がない。」このように言う人がいます。いわゆる「あせり」からの言葉です。なかなか自分が思うような結果が出ない場合もあると思いますが、そのような経験は多くの人たちが経験しています。「合格体験を聞く会」で直接先輩から聞いた体験談や「進路の手引き」に記載されている先輩たちからの「合格体験記」をしっかりと読んで、先輩たちからの自らの反省も踏まえた、今、皆さんへ伝えたい「真の心」のアドバイスを受け止め、即実行してほしいと思います。

時間を有効に使ってください。部活動をしている人は、部活動をしている時の方が時間を有効に使っている場合があります。時間がない時の方が物事に集中して効果的に活動ができることもあります。部活動引退後は特に注意してください。部活がないからゆっくり勉強ができると思っている人は、緊張感がなくなり、だらだらした勉強になり、効果が思うように現れないといったようなことになりかねません。定期考査前に時間がなかったが、そのためいつもより集中して効果的に勉強できたということもあったかもしれません。長い期間、集中力を持続させるという事は難しい事です。しかし、希望する進路先へ進めた人は必ず「工夫」や「努力」をしています。集中して取り組んでいます。各界で活躍した人が共通して言っていることは「努力」や「前向きな気持ち」です。例を挙げてみます。

・「どんな人だって成功できる。」自分にこの言葉を何度も言い続けていれば、絶対に成功できるのです。
(ジョン・レノン)

・努力をすれば報われる？ そうじゃないだろう。報われるまで努力するんだ。
(リオネル・メッシ)

・今を変えなければ、未来は変わらない。
(五郎丸歩)

・不安もプレッシャーもありますが、それをはねのけられるのは練習のみです。
(谷亮子)

・今日の成果は過去の努力の結果であり、未来はこれからの努力で決まる。
(稲盛和夫)

やる気のある時は誰でもできますが、気分が乗らない時にどのように「工夫」して自分を奮い立たせてやるかが目標の達成に重要です。

いろいろな人たちの言葉の中から自分を奮い立たせる言葉を見つけ出し、それを自分が見える場所に掲げて、勉強に取り組むのもひとつの方法かもしれません。

1年後の理想の自分を描いて、その目標に向けて今から計画を立て、確実に取り組んでください。皆さんの目標が達成されることを願います。